



ラグビーワールドカップ2019組織委員会 Newsletter

Vol.24(2014年8月)

今月号では、元南アフリカ代表 チェスター・ウィリアムズ氏とラグビーワールドカップ2019 アンバサダー 大畑大介氏の対談、子ども霞が関見学デー「2020 東京オリンピック・パラリンピック教室」、熊本で行われた「熊本スポーツフォーラム」への参加、日本スポーツ振興センターによる平成26年度スポーツ振興事業助成交付決定、平成26年度第2回理事会についてご報告いたします。

■元南ア代表ウィリアムズ氏×RWC2019 アンバサダー大畑大介氏 対談

1995年、南アフリカで開催された第3回ラグビーワールドカップ(RWC)で同国代表として出場、初優勝を飾ったチェスター・ウィリアムズ氏が7月に来日。1996年に日本代表入りして以降、爆発的な加速力でトライを量産し、テストマッチ(国代表同士の試合)69トライという世界記録を積み上げた、RWC2019アンバサダー大畑大介氏と対談しました。



©JR 2019 photo by H. Nagaoka

ふたりはお互いの存在はラグビーでの国際的な活躍で知っていたものの、会って話しをするのは今回が初めて。小さな体で世界と戦った

工夫や、RWCの魅力、RWC2019の成功に向けて大切なことなどを話しました。対談の内容は日本ラグビーフットボール協会のウェブサイトに掲載されています。

<http://www.rugby-japan.jp/news/2014/id27151.html>

ぜひご覧ください。

■子ども霞が関見学デー「2020 東京オリンピック・パラリンピック教室」



8月6日(水)、7日(木)に行われた「子ども霞が関見学デー」。本イベントの催し物として「2020 東京オリンピック・パラリンピック教室」が文部科学省旧庁舎にて行われました。本イベントでは日本アンチ・ドーピング機構がオリンピック・パラリンピックの講演、そして日本ラグビーフットボール協会、RWC2019 組織委員会がラグビーやRWCについての講演、タグラグビー体験教室を行いました。

両日ともに20組以上の小学生と保護者が参加。オリンピックやラグビーのクイズに挑戦したり、タグラグビーで汗を流したりしました。

イベント終了後には2020東京オリンピック・パラリンピックのピンバッジとRWC2019のピンバッジ、ステッカーが参加賞としてプレゼントされました。また、会場に展示されているラグビー日本代表の歴代ジャージを着用して記念撮影をするなど、楽しい夏休みの一日となった様子でした。



■平成26年度スポーツ振興事業助成交付決定。「toto 助成金交付式」へ出席



独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）の助成事業「スポーツ振興くじ助成」より、今年度RWC2019 組織委員会へ3億9000万円の助成金が交付されることが決定しました。これとともに、7月16日（水）に開催された「toto 助成金交付式」に

RWC2019 組織委員会の嶋津事務総長が出席。交付認定書が授与されました。

日本スポーツ振興センターでは、国のスポーツ振興基本計画に基づくスポーツ振興政策の一環として、日本のスポーツの国際競技力向上、地域におけるスポーツ環境の整備充実など、スポーツの普及・振興を図るため、「スポーツ振興事業助成」を実施しています。現在、助成制度はスポーツ振興くじ(toto)による助成、スポーツ振興基金の運用益による助成、競技強化支援事業助成金（国からの交付金）による助成の3種類があり、RWC2019 組織委員会はスポーツ振興くじ助成より、助成金を交付されることとなります。

なお、平成26年度のスポーツ振興くじ助成は、地域のスポーツ整備に対し約83億円、地域スポーツの普及に対し約27億円、スポーツの競技水準の向上に対し約57億円、東日本大震災の被災地において行われるスポーツ活動に対して約10億円、あわせて約177億円の助成が行われています。

なお、平成26年度のスポーツ振興くじ助成は、地域のスポーツ整備に対し約83億円、地域スポーツの普及に対し約27億円、スポーツの競技水準の向上に対し約57億円、東日本大震災の被災地において行われるスポーツ活動に対して約10億円、あわせて約177億円の助成が行われています。



■「熊本スポーツフォーラム」に伊達事業部長が参加



7月24日(木)、RWC2019 熊本招致連絡協議会事務局がRWC2019 試合会場招致のため「熊本スポーツフォーラム」を開催。RWC2019 組織委員会から伊達亮事業部長が参加しました。会場は女子選手を含む地元の高校生ラグビー選手やラグビーファン、関係者など約300名で満員。伊達事業部長はRWC2019の開催概要、そしてRWCがもたらす自治体へのメリットなどについて話しました。参加者、特に高校生からRWCに関する質問がたくさんあり、熊本のラグビーに対する未来と情熱を感じさせるイベントとなりました。

■平成26年度第2回理事会 開催報告

7月29日(火)、平成26年度第2回理事会を東京・経団連会館にて開催しました。今回は組織委員会発足から2年が経過し、理事の任期が終了したのち、改めて理事が選任され、初めて開催される理事会となりました。理事会では6月に開催された平成26年度第1回評議員会の報告、会長・副会長の推薦、大会予算などの運営方針全般などが話し合われました。

理事会終了後にメディアブリーフィングを実施し、嶋津事務総長が出席。理事会での審議事項などを発表しました。嶋津事務総長は「理事会開催の度に大会予算については議論を重ねており、少しずつだが具体的になってきている。開催都市が決まり、本格的な準備をしていくなかで収支を精査し、クリアなものができるのではないかと思っている」と話しました。さらに理事会での報告事項として東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連絡会を開催して行くことも発表。今後事務レベルでの定期的な会を通じて、協力しながら共通する課題などに取り組んでいくと説明されました。

また約11か月にわたり、RWC2019 組織委員会の暫定CEO、エグゼクティブアドバイザーを務めてきたマット・キャロル氏が7月末に契約満了となり、母国オーストラリアに帰国することも紹介されました。キャロル氏はメディアブリーフィングに出席し、「最初は半年の予定でした。家族はオーストラリアに住んでおり、離れて生活していたということもあり、今回契約を終了することとなりましたが、これからも変わらずアシストしていきたい」と話しました。また、キャロル氏は「日本人はスポーツがとても好きだと思います。RWCは世界のラグビーのトップ中のトップが集まる大会。日本人の心に響くのでは。誰でも歓迎をしてくれ、食べ物もビールも美味しいこの日本でRWCが成功しないわけではない、と思っています」とRWC2019の成功に大きな期待を寄せました。



公益財団法人ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会

■理事

※新任理事・監事

氏名	社名役職名
<会長>御手洗 富士夫	一般社団法人 日本経済団体連合会 名誉会長 キヤノン株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO
<副会長>竹田 恆和	公益財団法人 日本オリンピック委員会 会長
<副会長>中村 芳夫	一般社団法人 日本経済団体連合会 顧問・参与
<副会長>森 喜朗	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 会長
<事務総長>嶋津 昭	財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)顧問
石井 直	株式会社 電通 代表取締役社長執行役員
上野 裕一	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 RWC2019 委員会 委員長
岡村 正	株式会社 東芝 相談役
小西 宏	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 理事・事務局長
小林 健彦	日本税理士会連合会 副会長
坂本 典幸	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 理事・会計役
佐治 信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長 公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 副会長
高島 正之	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 副会長
田嶋 幸三	公益財団法人 日本サッカー協会 副会長
張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
遠山 友寛	TMI 総合法律事務所 弁護士
徳増 浩司	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 理事 公益財団法人 ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 事務局長
長榮 周作 ※	パナソニック株式会社 代表取締役会長
野口 一彦	キヤノン株式会社 執行役員
長谷川 閑史	公益社団法人経済同友会 代表幹事 武田薬品工業株式会社 取締役会長
平尾 誠二	神戸製鋼コベルコスティーラーズ ゼネラルマネージャー
眞下 昇	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 顧問
松村 直季 ※	新日本有限責任監査法人パートナー
矢部 達三	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 専務理事
和田 文男	公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会 顧問

■監事

坂井 秀行 ※	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 監事
袖山 裕行	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 監事

RWC 2019

検索

お問合せ：公益財団法人 ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会 事務局
〒107-0061 東京都北青山 2-8-35 2 階 TEL 03-5771-2019 FAX 03-5771-2018
<http://jp.rugbyworldcup.com/rugbyworldcup2019/>